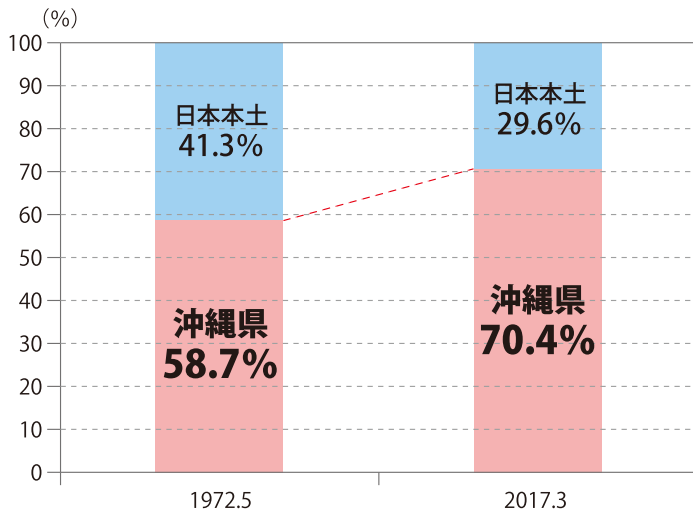
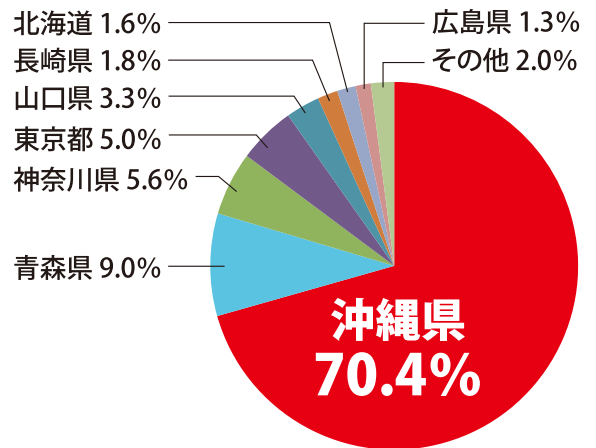


■米軍専用施設面積の割合の推移(復帰後)

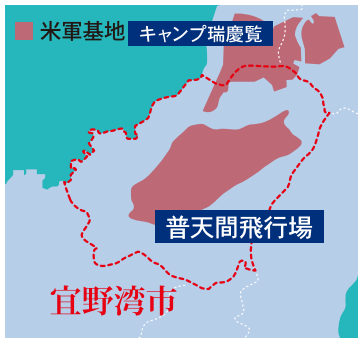


■米軍専用施設面積の割合

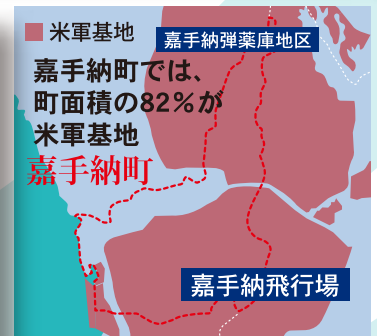


沖縄が日本に復帰した1972年当時、全国の米軍専用施設面積に占める沖縄県の割合は約58.7%でしたが、本土では米軍基地の整理・縮小が沖縄県よりも進んだ結果、現在では、国土面積の約0.6%しかない沖縄県に、全国の米軍専用施設面積の約70.4%が集中しています。

このため、144万人が住む沖縄県では、住民が米軍基地と隣り合わせの生活を余儀なくされています。



10万人近くが住む宜野湾市の真ん中に位置し、市の面積の1/4を占める普天間飛行場。「世界一危険」とも評される。



極東最大規模の米空軍嘉手納飛行場。日常的に発生する航空機騒音は、周辺住民の生活環境に大きな影響を与えている。